

い、鎌を使って稲を刈りました。(年長組 十月三十日)



くさばな しんぶん

2017年10月号

197-0802
東京都あきる野市草花3060
電話 042-558-3018
ファックス 042-559-3071



《すばらしい秋晴れのもの運動会》

十月八日(日)の運動会は、久しぶりの秋晴れに恵まれました。お日さまの光は、やっぱりありがたいものだとつくづく思いました。ことしの秋は雨が多く、気分もなんとなく晴れませんでした。本来ならば、園庭での練習迎えるのですが、思わず一杯の力と気持ちをこめてもかなりよくできていたのに、それが追いついてきた。その象徴が、フィナーレ。これが初めての「快挙」でもこれは初めての「快挙」

じつは、運動会についてあると思います。演技や大きな、ご家族を含むみんなの種目・演目をたくさん入らんの場として考えたらどうしよう。そうしたら考えを否が、当園は、年度末の「幼稚園の教育要領という、大安として考えています。年して運動会を考え、それを半年の幼稚園教育の到達点こうした考え方は堅苦しいん。でも、行事ひとつを考

そしては大事なものである。それにしても、練習の時とはまったく違い、大勢のお客さまに囲まれて競技をし、演技をすることがいかに大きなことであることか。それぞれの小さな胸の中で何を思い、何を感じているのか。当然、ドキドキもあり、緊張もあり、いつもの自分とは違うということもあるでしょう。しかし、終わったときの喜びはいかばかりか。ひとりひとりが、この体験を大事に大事にしたいと強く願っています。ご家庭でも、折りに触れて、褒めて自信を与えていただきたいと思います。

《スマホ その2》
先月号でスマホのことを書きました。このスマホについて、こんな記事がありましたので紹介します。(「これからの幼児教育」二〇一七年秋季号 ベネッセ教育総合研究所)。
詳しくはここに書き切れませんが、この記事の主題と副題をご紹介します。

データから見る幼児教育
第2回 乳幼児の親子のメディア活用調査
・0〜6歳児のいる家庭のスマートフォン所有率は4年間で大きく増加
・約2割の子どもの「ほとんど毎日」スマートフォンに接している
・外出先や家事の最中など多くの場面で子どもがスマートフォンに接する割合が増加
・7割超の母親がテレビの内容について子どもと会話



理事長・園長 山城 清邦

これを読むと、私などは時代の変化を感じてはいるものの、やはりそんなかと少々の驚きを感じます。でもまた、テレビが各家庭に浸透し始めたころ、同じような迎えられ方をしたことを思い出します。いまから振り返れば、テレビは決して歓迎されてはいなかったように思います。何ごとにつけても、絶対良い、絶対悪い、という判断はできないと考えます。そうです、要は使いつつ、そして、人は五感(視覚・聴覚・嗅覚・味覚・触覚)が豊かで、それらをフル動員してその人格を作っていきますから、生活全体のバランスが大事であることは、どんな時代でも、またどんなツールが登場しても変わらないのだと思います。
この記事の中で、汐見幸幸白梅学園学長は、「バランスよくメディアを利用・過度な心配は必要ない」、「間接情報と実体験がつながり、真の知性をつくり上げる」とし、「星や月を見る」、「たき火をする」、「水遊びや川遊びをする」、「森のなかで遊ぶ」、「金属に触れる」、「土遊びをする」、「太陽の出ているときに外遊びをする」ことを提唱しています。「参考まで」。(十月三十一日記)

日々の保育から

主任教諭 影山 幸江

10月8日(日)の運動会は、天気にも恵まれ、お子さま方のそれまでの練習の成果を存分に発揮することができました。ご家族の皆さまやご近所のさまの応援や大きな拍手に感謝いたします。

さて、運動会が終わり、これから体を動かして遊ぶには良い気候となるはずでしたが、例年になく雨の日が続く、室内での遊びを余儀なくされてしまいました。雨が続き、発散する場もないので、どのように遊んでいるのかと各クラスを見て回っていましたが、思った以上に落ち着いて好きな遊びを楽しむ様子が見られました。そこで今回は、室内遊びの様子をお伝えします。

〈かわくみ〉

1組、2組それぞれのクラスで、「ごっこ遊び」が展開されていました。1組は活動で作った折り紙のリングで『りんごやさん』、2組はぬいぐるみなどを使っての『お医者さんごっこ』を楽しんでいました。これまでの活動や遊び、日常の経験を通して得たことを友だちと一緒に発展させ、一つの遊びとして展開していると感じました。特に、2組の『お医者さんごっこ』は、赤ちゃんが生まれる設定で、服の中にぬいぐるみを入れてお腹を膨らませていたり、「赤ちゃんが生まれました!」とお腹からぬいぐるみを出したり、また先生役が治療する姿も見られ、なかなかリアルなごっこ遊びとなっていました。

〈もりぐみ〉

気の合う友だちと一緒に好きな遊びが展開されていました。女の子は、主にままごとや塗り絵、製作。男の子は製作やトランプなどで遊んでいました。それぞれの遊びの中で、自分の思いを伝えたり、保育者に援助してもらったりしながら子ども主体で遊びが進められていると感じました。

また、先日、見立て遊びに使えと思い、色々な形や色をしているタイル(昔のお風呂の壁などに使われている材料)を出してみると、興味を持った子から早速遊び始めました。はじめのうちは扱いに戸惑っていたお子さまが多く、「自由に並べる、形作る」活動が難しかったようですが、少しずつイメージが形になってくると、友だちの作る作品にも関心が向き、友だちと楽しむ様子が見られました。

〈やまぐみ〉

やまぐみもそれぞれのクラスで遊びが展開されていましたが、概ね各クラスともに同じ内容で、「トランプ」や「UNO」などのカードゲームで遊んだり、どうぶつしょうぎやままごと、製作などをしたりする姿が見られました。

カードゲームやどうぶつしょうぎでは、はじめのうちは保育者が一緒に遊びながら援助してルールを教えました。ある程度ルールが浸透すると、保育者がいなくてもお子さまたちだけで進められるようになり、はじめて参加する友だちにルールを教えられる姿が見られました。ルールが定着すると、勝つためにはどうすればよいかを考え、友だちとルールのある遊びの楽しさを共有し遊んでいました。製作では、何日もかけて友だちと一緒に一つの物を作り、その後の遊びに生かしていました。

各クラスともに、それぞれの年齢に沿った遊びが繰り広げられていて、その中で友だちや保育者との関わりが深まっていると感じました。

雨で外遊びができない中でも、室内遊びを十分に楽しみ、その中で経験もしっかり成長につながっているのだと思い、と改めて遊びの大切さを知ることとなりました。

保護者会だより

運動会も無事に終わり、すっかり秋らしくなりましたね。運動会の保護者競技では沢山の保護者の方にご参加頂き、ありがとうございました。

今回は川尻先生と望月先生にインタビューしました。

★川尻先生

Q1. 保育の仕事をしていてよかったと思う事は何ですか?

沢山の子どもの子育てに参加させていただけのことで。また、宮城県の被災地で子どものコミュニティ形成のきっかけを作れた事です。その時に、保育士と幼稚園教諭の資格、職歴が大人の協力を得る武器になりました。

Q2. 忍者修行をさせているとお伺いしました。どのような事を行うのでしょうか?

修行では、古来の日本人の心構えや考え方、安全教育や礼節などを中心とした和の精神を学んでいます。また、手裏剣打ちや刀の演武、場面に応じた道具の使い方や、忍者の実態検証や考証も行っています。仕事としては、子ども向けのプログラム講師をメインに行っています。その他、木工制作やプログラム構成、プログラム用の登山ルートの開拓もしています。



★望月先生

Q1. 保育の仕事をしていてよかったと思う事は何ですか?

お子様の成長を間近で見られる事です。日々成長していく中で、昨日までできなかった事ができるようになったなどという瞬間に出会え、その誇らしげな顔を見られる事はとても嬉しいです。また、お子様の言葉にはっとさせられたり、教えられる事も多いです。感動や優しさをたくさんもらい、お陰様で元気に過ごせています。

Q2. 和田先生から園のお花の管理を引き継がれたそうですが、どんなことをされていますか?

和田先生のように知識はありませんが、花を絶やさないようにし、植物に親んでもらえればよいなと思っています。最近はお子様が花の種を集めて見せに来てくれます。10月末頃、掘り起こした球根を植える予定です。来年の春に色とりどりに咲いたチューリップを見られる事を願って植えようと思います



お忙しい中インタビューのご協力ありがとうございました。
担当: やま2組 山崎 井上 ベネッセ

.